

「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 金子 武志

『創作テーマとの様々な出会い』

私の作品のテーマは、その時々環境や出会ったモノ・コトから発想することが比較的多い。旬な出来事や興味が作品制作に繋がりがしやすいのだと思う。面白い素材と出会ったり、気になった色や形や風景など、これまで様々なモチーフを扱ってきた。何かをとことん追究するよりは、その時々感性で表現することが好きである。新制作のスペースデザイン部ならではの間口の広さと懐の深さにこれまで助けられ、自由な気持ちで発表することができたと思う。

「毎回スタイルが違うのに展示会場では直ぐ分かる」とよく言われる。何か通底しているものがあるとのことなのだが自分ではそれが何なのかよく分からない。これまで制作した作品にはその都度色々なストーリーがあった。会員になった当初の作品から10年前の作品まで、少し古い作品を振り返りテーマに関わるエピソードを紹介したいと思う。

◎「作品を運ぶ」というテーマ

作品『OPEN⇔CLOSE(E⇔W)』（2000年）について



会員になって最初の作品。この年スペースデザイン部は初めて京都展に参加することになり、私も出品させていただく機会を得た。それまで自力で作品搬入していたものを業者に託す訳だから私にとってはそのことだけでも大問題だ。安全に運べて、梱包から出してサッと展示.. いっそのこと梱包そのものを作品にしてみようか.. 安全に運べたことをアピールするには中身は壊れやすいガラス製が良い.. という発想だった。プラスチック段ボールを積層したパッケージにガラスのオブジェ(花器)を詰め込み、オープンしたらそのままセッティングするというイメージだ。プラダンは半透明なので照明を仕込んでみた。ガラスオブジェはスケッチしてガラス職人に頼み、パッケージ制作や撮影にはゼミ生達に手伝ってもらった。タイトルにある(E⇔W)は裏テーマの東京と京都の往復を意図して明記した。

◎「花のすみか」という発想

作品『HANA NO SUMIKA』(2001年)について





2000年に会員になると同時にそれまで使用していた造形技法や材料（樹脂や金属）から一旦離れた。馴染みのスタイルを捨てたわけではないが、一旦白紙にリセットしたい気分だった（だから2000年からは白い作品が多くなる）。これまでの金属的で無機質なオブジェから一転し、何かしら生活に沿ったデザイン作品を思案し始める。2000年制作の花器作品「OPEN⇔CLOSE (EAST ⇔ WEST)」はそのきっかけかも知れない。何となく自身が解放され心地よい感覚だったので再度挑戦してみた。一つ一つは独立した多様な花器（花の住処）が同じ建物に集まって暮らしている風景をイメージした。言わば「花のアパート」「花のシェアハウス」である。

◎SNS からの発想

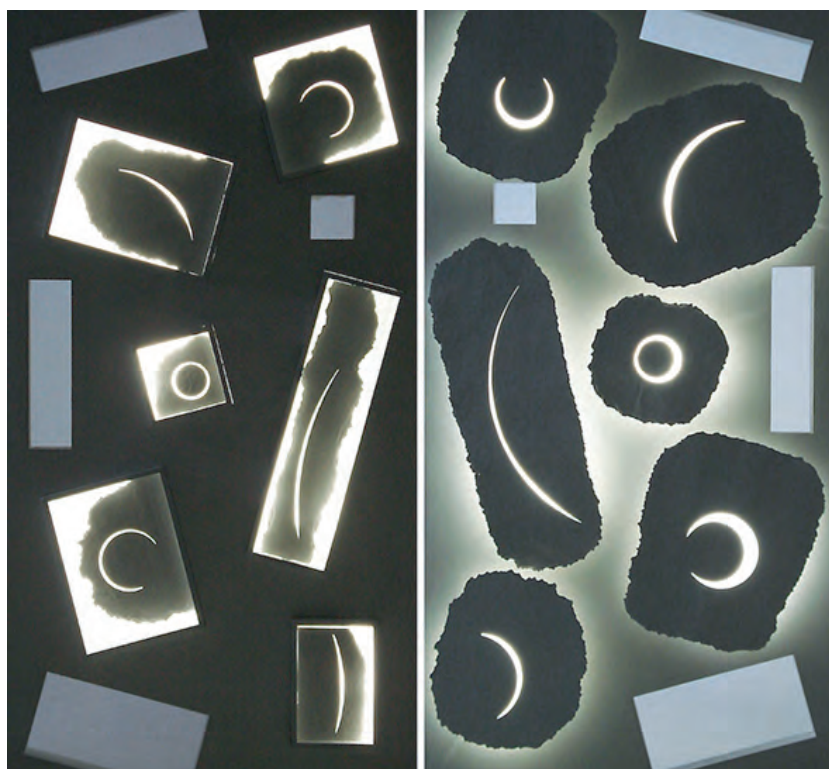
作品『白の庭の 50 の呟き』(2010 年) について



当時マイブームだった SNS の「Twitter」から着想した作品。その頃あちらこちらに出掛けては色々呟きをアップしていたが、他人の感性も共有できる Twitter は私には魅力的なメディアだった。タイトルにあるように、丁度 50 歳になった私自身が様々な風景と出会い、何かを呟いている、というストーリーを作品にしてみた。「白の庭」とは禅の石庭を現代的にイメージした空間でこちらも歳の数の 50 シーンを作った。観る人には 1/50 に縮小した世界に入り込んでもらい、空間をイメージしながら色々な思いに耽ってもらいたいと考えた。因みに自身の興味はその後「facebook」「Instagram」へと移行していくも、最近はどうどうでも良くなってきた感じである(笑)

◎出来事をモチーフに

作品『SUN ⇄ MOON / 20120521』(2012年) について



2012年5月21日、日本全体で皆既日食を経験することが叶い、私も勤め先でその天体ショーを楽しむことができたのでその出来事を作品に繋げた。表面と裏面で若干の表現ニュアンスを変えるなど工夫もしてみた。外側に広がるカタチと内側で収まるカタチ、光と陰影だけのシンプルな造形であるが、最終的にはライティング機能を持ったパーテーション作品としてまとめ現在も自宅の居間で間仕切りとして使用している。因みにこの作品のベースは2001年の「HANA NO SUMIKA」の使い回しである。これまでも色々なパーツを繰り返し利用しているがそれもデザインの一方法だと思っている。

●素材との出会い

作品『Regular ⇄ Irregular』（2013年）、個展「T's room」（2014年）について



産廃業者の株式会社ナカダイとの出会いから、様々な素材を知ることが出来た。通称「アクリルダンゴ」というプラスチック素材を使用したインテリア作品を制作してみた。この素材は自動車工場からの廃材で、スピードメーターやライトカバーなどで使用されるアクリル部品の製造過程で廃棄されるものだそうだ。魅力的なのに全く使い道がないというこの素材をどうにか作品に組み込めないかと色々思案した。“ゴミも宝物（作品）になる”という視点は、時々私たちのアートなマインドを刺激することがある。作品『Regular ⇄ Irregular』発表の翌年の個展では空間全体を「アクリルダンゴ」でディスプレイする企画を試みた。



1958年東京・三鷹生まれ。

大学で建築を学び、ビッグバンドジャズと出会う。卒業後、総合芸術家小野襄氏に師事し創作活動を開始。主に新制作展スペースデザイン部に作品を発表し、都内中心にグループ展や個展などの活動を展開する。

<活動歴>

日本大学生産工学部建築工学科研究生（1981）
日本大学生産工学部建築工学科助手（1982～1988）
小野襄 建築造形研究室（1981～2000）
日本デザイン福祉専門学校（1988～2023）
株式会社 ONOJIN 研究所（1986～1996）
創作ユニット「DIG」（1997～）
新制作協会 会員（1998～）
横浜美術短期大学非常勤講師（2002～2003）
全日本専門学校美術デザイン教育振興会／
文部科学省研究 研究員（2003）
（株）ハート&カラー「色彩学校」／
インストラクター科初級・中級修了（2004）
日本デザイン学会 会員（2004～2023）
昭和女子大学文化創造学科 非常勤講師（2006～2013）
明治大学国際日本学部 リクエスト講師（2008～2019）
昭和女子大学初等教育学科 外部講師（2013～2022）
日本デザイン学会教育部会 主査（2010～2023）
東京都専門学校アート&デザイン展 委員長（2011～2021）
ものづくりシエア工房
「monoATelieR」スーパーバイザー（2018～2020）
合同会社 アート&ヒーリング はなえみ 設立（2019）

<現在活動中>

合同会社 アート&ヒーリング はなえみ 代表
新制作協会スペースデザイン部 会員
アート&セラピー色彩心理協会 会員
BIGBAND PINO メンバー（3rd alto sax）
NY BIGBAND メンバー（1st alto sax）